

関東地方交通審議会

平成28年度 第2回政策推進部会 議事概要

1・日 時：平成29年3月16日（木） 14：00～16：00

2・場 所：横浜第二合同庁舎1階 共用第1会議室

3・出席者：（敬称略）

<臨時委員>

屋井鉄雄

<専門委員>

五十嵐徹、岩倉成志、中村文彦、兵藤哲朗、安島博幸

<関東運輸局>

持永局長、河村次長、香田総務部長、小幡交通政策部長、日置観光部長

越智鉄道部長、小椋自動車交通部長、久松自動車監査指導部長

酒井自動車技術安全部長、宮本海事振興部長、近藤海上安全環境部長 ほか

4・議事：

（1）関東交通観光戦略2016の概要等について

（2）戦略2016年度の進捗状況等について

（3）戦略2017年度行動計画等について

5・議事概要

（1）関東交通観光戦略2016の概要等について

資料2及び資料4参考資料に関して小幡交通政策部長より説明を行った。

（2）戦略2016年度の進捗状況等について

資料4に基づき、以下のとおり説明を行った。

「交通」及び「物流」については小幡交通政策部長より説明。

「観光」については日置観光部長より説明。

「安全」については小椋自動車交通部長より説明。

【質疑応答】

- ・タクシー初乗り運賃値下げについて、効果や狙いを教えてもらいたい。
- ・タクシー事業においても今後の人的集約産業的な流れを考慮した、自動運転や I T 技術の活用は必要だと思われる。

(五十嵐委員)

→高齢者や訪日外国人を初めとしたタクシーの需要喚起が目的であったが、サンプル調査では一定の効果が見られている。(資料5 P8)

→自動運転や I T の活用については、本省で行われている議論も含め、取り組んでいくべきものは取り組んでいく。

(小椋自動車交通部長)

- ・高齢者やバリアフリーの問題は重要なので、2016にフィードバックして書き足すべき。
- ・今後は障がい者や高齢者に対する教育が必要だと考えている。

(岩倉委員)

→関東運輸局としてもバリアフリーについては重要視している。行動計画には記載をした。

(小幡交通政策部長)

- ・一括した公共交通の経路情報提供事業ではどのような反応であったか。内容的に十分でないプランも見受けられるが。

→公共交通は整備されているのに、情報不足により使えていないであろう訪日外国人を課題として実施した。北関東へうまく回遊させるという目的もある。来年度は横展開をすすめて行きたい。具体的なプラン内容についても検討したい。

(小幡交通政策部長・牧田交通企画課長)

- ・貸切バス駐車場対策にある「ショットガン方式」とは何か
- ・舟運活用について補足をいただきたい。

→舟運活用については、隅田川の船便を使って浅草から臨海部まで運び、浅草のバスを総量的に減らそうと試みているもので、台東区のバス予約システムと愛待った今後検討を進めていくもの

→ショットガン方式は銀座に来たバスをいったん晴海へ移動させるバスコントロールの実証事業。現在本格運用を前提に進めている。

(日置観光部長)

・ショットガン方式とは「乗降」と「待機」の機能を分けることだと思うが、その考え方がうまく文言としてある方がよい。また、都市側で駐車場の整備計画や基本計画が策定されていると思うが、そこに言及があってもよいのではないか。

(中村委員)

・羽田の深夜早朝アクセスについて、今年は具体的な取り組みがなかったようだが、問題点や新たなニーズ等は生まれていないのか。

(屋井部会長)

→実態調査を行ったところ、周知の必要性を感じた。来年度からは実態のニーズを踏まえて新たな発着地点を検討したい。

(小椋自動車交通部長)

・地域交通について関係者間での情報共有、経験の共有はどれくらいできているか。関東圏以外からも参考例は収集すべき。

→そこを問題意識として、がんばるプロジェクトを実施した。関東圏外の事例も取り入れており、参加者からは高い評価をいただいているところ。

(小幡交通政策部長・牧田交通企画課長)

・準中型免許の新設については物流業界ではかなり期待されている。ぜひPRをお願いしたい。また、有楽町線で行われた、旅客鉄道を活用した物流実証実験の効果についてお聞かせ願いたい。

(兵藤委員)

→旅客と錯綜することからオペレーションの問題、ガードマンをつけるなどのコストの問題、車両基地の整備のハード的な問題があるが、前に進める部分もあると考えている。規模の小さいニッチなところを探す議論も進めたい。

(小幡交通政策部長)

→高校訪問の際にも先生方にご理解いただいているところ。また、一部トラック協会と
共同でパンフレットを作成し教習所などにおいてももらうなどの取り組みも行ってい
る。今度もご指摘を踏まえてしっかりPRしていきたい。

(小椋自動車交通部長)

・共同配送の促進とはどのようなものか。また、どのような課題があるのか。

(五十嵐委員)

→個別のお宅への最後の集配部分について、各社が共同デポットを作り代表で1社が運
ぶもの。ヤマト運輸が藤沢で手がけているものや、エリア配送も想定している。
課題としては各社のサービス水準のすりあわせや手数料のコスト的な問題もある。ま
た、競争関係と協調関係のバランスが現場でとりづらい面もあると聞いている。

(小幡交通政策部長)

・共同配送については、受け手側と配達側の課題をきちんと整理されているとよい。

(中村委員)

・労働力確保のために学校訪問されているが、これは誰が主体となっていて、関東運輸
局はどのようなスタンスで行っているのか。

(屋井部会長)

→運輸支局が先頭に立ってやっている。物流業界のイメージ改善の部分で先生方にアピ
ールしている。

(小椋自動車交通部長)

・であれば、趣旨などがちゃんと伝わる表現にしたほうがよい。

(屋井部会長)

(3) 戦略2017年度行動計画等について

資料3に基づき、小幡交通政策部長、越智鉄道部長より説明を行った。

【質疑応答】

- ・ 広域関東観光周遊ルートについて、今年のモデルコースを見ると日本人もあまり行かないようなルートになっていたり、ちょっと無理なものも見受けられる。見直しを図った方がよい。また、ルートだけでなく、ワンデイトリップなど、具体的な提案を盛り込んだ無理矢理プロモーションして乗せようとするものでないものも考えていただきたい。

(安島委員)

- ・ 観光ルートの開発は観光客が探しやすい環境を整備することも必要。Wi-fiの整備が行き届いていないことへの不満をよく聞くが情報入手に関する整備の取り組みは必要。また、オリンピックに関連していえば、施設の問題がクローズアップされて観光客を迎え入れるマインドの盛り上がりや沈んでしまっているように思えるので、その盛り上げを考える必要がある。

(五十嵐委員)

- ・ 羽田空港アクセスのバスについては、まだ課題はいくつか見受けられる。タクシーについても未だに行列ができる場所があり、これもまた課題として意識してもらいたい。
- ・ 可視化については重要だが、実態をよく踏まえた上でデータの取り方は工夫が必要。
- ・ 貸切バスでは契約する旅行会社の立場で圧力の問題はまだある。全体のメカニズムには常に目を向けていただきたい。

(中村委員)

- ・ 東京圏大回廊というと「車でなんでも動ける」というイメージに思える。公共交通で動けるという打ち出し方を考えた方がよい。
- ・ バリフリについて、身障者などに公共交通の乗り降りを教育する、という視点をご検

討いたきたい。

- ・オリンピック関連ではショットガンの話など浅草や銀座の問題に対処されているようだが、築地移転の問題などを東京都だけに任せておくとそれができなかった場合に後で問題にならないか心配である。

(岩倉委員)

- ・タクシー初乗り短縮運賃においては、事後検証と情報提供で渋滞の解消効果はあるのだろうと思われる。
- ・コンテナのラウンドユースについて、自治体まかせでよいのか。

(兵藤委員)

- ・地域公共交通の利用状況の可視化は推進すべきものだが、新規の項目として入れるには公共交通の利用促進という課題に対する効果としては遠すぎる。高齢ドライバーの問題に運輸局として取り組むとするなら、車検のタイミングで注意喚起を行うなど運輸局らしい取り組みをすればよい。
- ・鉄道に関して、たとえば駅直近の踏切利用者は鉄道利用客が大半であるケースも多い。そのような場合に鉄道会社と道路管理者に対して踏切道をつくるよう働きかけるなど、プライオリティーをもって重点的に進めていくなど、めりはりをつけて検討してもらいたい。
- ・議員立法で自転車活用推進法と無電柱化の推奨ができています。とくに自転車関係などは全部一概にだめだという今のやり方のようなものではない、場所に応じて大らかなサービスができるよう約款の見直しなど、そのための検討を入れてもらえたらよい。

(屋井部会長)

→wi-fi環境整備については、財政支援・補助性ということで進めている。

→ルートの検討については、現在6泊7日程度で宿泊するようなルートを観光庁で検討してもらっているほか、東京の知名度を利用して関東を売り出して都心の一極集中を緩和する狙いも含め、協議会独自でルートの検討もすすめている。

→オリンピック機運については、これからさまざまな取り組みを4000万人に向けてすすめている。(日置観光部長)

→データの取り方についてはよい事例、失敗事例など、わかりやすくポイントをまとめていきたい。

→身障者の訓練についてのお話については、バリアフリーネットワーク会議で議題するなどを検討したい。

→コンテナのラウンドユースについては、個々のビジネスの部分もあるので難しいがなにができるかを検討したい。

→可視化については全体のレイアウトの中で記載を工夫したい。

→自転車法に関して、新しい鉄道の使い方ということで、鉄道会社とコミュニケーションをとって行く中で何ができるか検討したい。

(小幡交通政策部長)

→踏切の問題については、今後は協議会を活用して調整していきたい。

→サイクルトレインについても取り組みを進めていきたい。

(越智鉄道部長)

→兵藤委員からのタクシー初乗短縮の件については、引き続きデータを見ていきたい。

→中村委員からのバス・タクシーのご指摘の件は重要なものと認識している。今後検討していきたい。

(小椋自動車交通部長)

→今後の進め方については、本日いただいたご意見を最大限踏まえ、4月初旬には公表したい。

(小幡交通政策部長)

→本日の議事録・議事概要についても後日公表します。

(鎌田次長)